

# 令和4年度事業方針

法人事業は昨年度も多様な事案に果敢に挑戦し、組織の成長に繋げてまいりました。その中でも、新型コロナウイルスによる感染予防対策には多くの時間を費やし、検討・対策・周知などに注力した一年になりました。今現在も新たな変異株が発生し感染者が急拡大の様相を呈しております。道内では、まん延防止等重点措置が発出され感染予防対策の徹底が叫ばれているところです。

法人においても長期化するコロナ禍のなかで、基本的な感染予防対策は勿論のこと密閉・密集・密接の3密対策にも力を注ぎ、各事業所を対象にした全体の会議はリモート会議、書面評決などの手法を用い、OFF-JTなどの研修ではオンラインでの研修が定着してきました。このように事業の進め方もコロナ禍のなかで種々、工夫され新たな年度を迎えることとなります。

今年度は中期事業計画の最終年度に加え、第5次中期事業計画を検討する年度でもあります。第4次の計画策定時に副題を「今、新しいことの創造」とし、6項目17細項目28課題を策定いたしました。現在のところ令和3年度末までに検討するとした24課題については6割強の着手率になっており、第4次中期事業計画最終年である今年度に、その成果を期待し第5次中期事業計画に持続させることが重要です。

なお、第4次中期事業計画初年度から取り組んだ人材育成強化、販路拡充の強化推進については、今年度から本格稼働に向けて始動させます。

また、各事業所が取り組む重点項目の選定においても優先する課題を見極め「何のためにそれをやるのか」について、しっかりとした目標を定め周知実践し計画・振り返り・評価に結びつけることが大切です。

他方、法人は昨年11月にコミュニティプラザ構想の実現に向け、スタートを切りました。この事業は「国の共生社会の実現」、「法人各事業の拠点的な事務所を統合化し組織機能の強化」、「狭隘化した事業所の移転」といった、3つの観点を骨格に据え高齢者、障害者、子ども、地域住民が集える空間を創造していくことを目指していくものです。まだ、構想段階で数年間をかけて取り組む事業になりますが大きなプロジェクトとなります。法人事業の成長を図るとき、取り組む時期を今と判断しテープを切ったところです。

法人事業が今後、地域の社会福祉サービスを包括的に提供でき力強く、地域になくてはならない社会福祉法人としてしっかりとした組織を構築し、地域の福祉サービスの担い手となる、として推進するものです。

私たちの事業は創設者が昭和11年、この地に「この子たちのために」と私立室蘭聾啞学院を設立し、学院の寄宿舎を利用して児童福祉施設としたのは昭和24年であります。学院時代は日中の時間は教育、夜は生活の場として教育と福祉を混在させながら粉骨砕身の思いで実践し、私どもにバトンを繋ぎました。年度のスタートを切る今、改めて「利用者の幸せ」を願った強い思いを振り返り、新しい年度に職員が協働し一丸となって新たな目的に全力を注ぎたいものです。